



発達障害理解のための講演会

発達障害について考え方 ～大人の事例から見えてくるもの～



講師：岩波 明氏 (昭和医科大学特任教授・精神科医・医学博士)
東京大学医学部医学科卒業後、東京大学医学部附属病院精神科、東京都立松沢病院、埼玉医科大学精神科を経て、ヴュルツブルク大学に留学。2012年より昭和大学医学部精神医学講座主任教授(※現 昭和医科大学)、2015年に同大学附属鳥山病院・病院長に就任。2024年から現職。2020年、日本成人期発達障害臨床医学会を立ち上げ、理事兼事務局を担当。主な研究分野は、精神疾患の認知障害、発達障害の臨床研究など。
著書：『発達障害』(文春新書)、『これ一冊で大人の発達障害がわかる本』(診断と治療社)など多数。



●『発達障害』は病名・診断名ではなく、総称

発達障害は、生来の何らかの脳機能の偏りによって特徴的な精神症状、行動上の問題が出るような一群です。発達障害は多様で、さまざまな症状が併存していることもあります。「発達障害は子どもの疾患で思春期以降はよくなる」と言わされた時期もありましたが、誤りです。成人以降も症状が持続するケースが多く、精神科臨床においても社会的にも、大きな注目を集めています。

発達障害とは？

発達障害 = ASD (従来の広汎性発達障害) ではない。
知的能力障害群
コミュニケーション障害群
自閉症スペクトラム障害 (ASD)
注意欠如・多動性障害 (ADHD)
限局性学習障害 (LD)
運動障害群 その他

※ DSM-5 の診断基準より

● 発達障害に関する誤解

発達障害は、時代や研究が進むにつれて、定義や考え方が変わるため、誤解が生じやすいです。

X よくある誤解

発達障害は成人で発症

成人期の発達障害は知的障害を伴わない

発達障害は精神疾患か

- 子どもの頃から特徴がある。診断には、小児期の症状の確認が必要。
- 知的障害を伴う発達障害の方もいる。ただ、成人になると知的障害をメインに相談に来ることは少ない。
- 発達障害は、うつ病などの一般的な疾患と異なり、病相(病気である期間)がない。病院では、疾患や福祉的な障害になる。発達障害の重症度はさまざま、疾患と特性の両側面があると考えられる。

● ASDとADHD

ASDの症状【対人関係、社会性の障害・こだわり(・言語発達の遅れ)】とADHDの症状【多動・衝動性・不注意】は異なるように見えますが、臨床的には症状の重なりは大きく、問題行動のパターンが類似していることがあります。他の精神疾患との併存も多いことから診断が難しいです。

「空気が読めないからASD？」▶ADHDにも同様の行動は見られる！

- ASDは、空気を読むことが難しい。一方でその場の様子を察知して発言するように促すと対応できることもある。
- ADHDは、空気を読めないのではなく、読もうとしない。思ったことを衝動的に話したり、一方的に主張したりするため、対人関係が長続きしにくい。失敗経験から対人関係を避けてしまう場合もある。

ASDの特徴

- 「対人関係の障害」の程度はさまざまである。:生涯、親しい友人がまったくいない例から、「物静かでおとなしい」存在として周囲から受け入れられている例まで。
- 「空気が読めない」「場の雰囲気が理解できない」ため孤立する場合や、一方的な言動を繰り返すこともある。
- ADHDに類似した不注意症状、衝動行為がある。
- 興味の偏りにより、マニアックな行動パターンを示す。:特定のものの収集、詳細な記憶機能。
- 行動パターンに自分なりのルールがある。:道順、着替えや食事の順序など、自分のルールを変えられない。

ADHDの特徴

- 多動の頻度は高率ではない。「じっとしているのが苦手」「手足をもじもじする」程度のことが多い。
- 「忘れ物、なくしものが多い」「片付けが苦手」などの不注意症状は、小児期も、思春期以降も頻度が高い。
- 対人関係を得意とする例が多いが長続きしない傾向がある。
- 「一方的にしゃべる」「一言多い」ことにより、思春期以降に孤立する例がある。
- 教師から認められる例と、攻撃の対象となる例がある。

ASDとこだわり

特定のものへのこだわりが強い。自分の行動にマイルールを持つ場合もある。考え方にもこだわりがあり、他者の意見を受け入れにくいこともある。子どもの頃のこだわりは、大人になると別のこだわりに変化していることが多い。

ADHDと衝動性

衝動性のコントロールが難しいために、アルコールやギャンブルへの依存、金銭管理の問題が起こりやすい。失敗経験の積み重ねで自信を失くし、二次的な障害として一過性のうつ状態・不安症状を併存することがある。

● 大人の事例紹介

正義感の強いASD男性

思春期に不登校、転校を繰り返す。家族への暴言などがあり、受診。

幼児～児童期

決まった色のタイルを踏みたい！
ストレスが強くなるとこだわりも強くなる。

注意をしそうでトラブルになる。
興味のあることには熱心。

ルールは守らなくてはいけない！
豊 遅 難読漢字 養

思春期

いじめ、対人関係のトラブル
学校への不適応
ゲームに熱中し昼夜逆転

病院で投薬を中心治療を開始。
理工系大学の二部に進学し、IT関連の企業に就職。

現在

僕は大学に朝から通うのはむずかしい。二部(夜間)に通いたい。

このケースの支援のポイント

- 本人の成長
- 投薬
- ネガティブなことを言わず、本人が自分で決めるまで待つことのできる母親がいた。

● ASDとADHDの治療のポイント

自分自身の行動特性を①理解すること②肯定的に受け入れること③是正に立ち向かう気持ちを持たせることです。生活上あるいは仕事上で、何が問題なのかを理解し、不得意な状況への対処行動を考えることが大切です。不得意な状況を起こさないように避けてもよいと思います。また、薬物療法の前提として、疾患に対する本人の理解が重要です。同じ症状を持つ当事者によるグループや交流が有益だったという方も多いです。

● 発達障害と創造性

ADHDのマインドワンダリング(現在行っている課題や出来事から注意がそれて自発的な思考が行われる現象)は、思考の流暢性や柔軟性、独立性などの「創造性」と関連していると言われています。発達障害の特性をもつ偉人・芸術家・実業家は多くいます。発達障害の特性を、単に症状として見るのはではなく、別の面から見ると、ポジティブに捉えることができます。

